

## 韓国・ソヌンサン(禅雲山)旅行記 2009

2009年5月18日から5月24日まで韓国・ソヌンサン(禅雲山)へ行ってきました。これはその旅行記です。

ビデオ作品「13年前の記憶 ～韓国・ソヌンサン(禅雲山)～」のオープニング映像は[こちら](#)。



### 5月18日 ソウル

18時頃、羽田空港国際線ターミナルに参加者4人が集まった。Fさん夫妻とYさんと私である。

私にとっては久しぶりの韓国だが、クライミングで韓国へ行くのは初めて。何かウキウキとしてしまうのだ。もちろん、頭の中は何を食べようかという思いでいっぱい。ヘムルタン(海産鍋)、ポグチギム(ふぐの唐揚げ)、サムギョプサル(豚三枚肉の焼肉)。

ソウル金浦空港到着は22時過ぎ。高速バスターミナル近くのパレスホテルへは23時近くに到着。この時刻から外に繰り出すことも出来ないので、部屋のミニバーからジョニーウォーカーを取り出し、Sさんと二人でふっかけて就寝。

### 5月19日 ソヌンサ(禅雲寺)

朝、6時前に起き、Sさんと目を合わせ、すかさずホテルのサウナへ。韓国人のサウナ好きは有名。我らも早速、韓国人に同化しようというわけだ。

さっぱりしたところで、ホテルを出発。5分ほど歩いて高速バスターミナルに到着。チケット売場で全羅北道コーチャン(高敞)行きを買くと、売場のアガシーは「今、出発するので、急いで9番乗り場へ行って下さい」という。出発寸前のバスに乗り込むとバスはすぐに発進。

3時間半ほどでコーチャン(高敞)に着く。ここでソヌンサ(禅雲寺)行きのバスに乗り換え。ここも乗り継ぎがよくバスはすぐに発進。田舎に来たなあ、と感じる。車窓から眺めると、松の植林が目立つ。

突然、広大な駐車場が現れた。ソヌンサ(禅雲寺)は観光地なのである。ここでバスから下車。

本日の宿を探しに禅雲寺観光ホテルに入った。明日は学生の予約でいっぱいということなので、一泊だけこのホテルに泊まることになった。



ソヌンサ(禅雲寺)行きの看板 禅雲寺観光ホテル  
荷物を置いて、下見に岩場まで行ってみることにした。

ソヌンサ(禅雲寺)を越え、貯水池の堤防を渡り、ゆるやかな斜面を登る。左にソクサル岩、そして、右にトゥグ岩と書いてある分岐に出る。そこから、両岩場は近い。

この岩質は石灰岩というより、鳳来の岩質に似た凝灰岩ではないだろうか？ そして、ソクサル岩の雰囲気は二子山の東岳に似ている。どっかぶりで長い。

Tさんはトゥグ岩にいた地元のクライマーから、いろんな情報を収集。その話によると、現在、ソクサル岩とトゥグ岩以外はあまり登られていないということだ。つまり、この両岩場がソヌンサン(禅雲山)の岩場の中心となる。

降りてきて、ソヌンサ(禅雲寺)へお参りし、食堂が並ぶところまで帰って来た。すると、先ほどの地元のクライマーがひとつの食堂に入っていた。この店が地元クライマーご用達の店だという。この店の親切なおばさんは「たくさん食べて下さい」と言いながら、店の奥から一冊の雑誌を持ってきた。「岩と雪」だ。ソヌンサン(禅雲山)の岩場の紹介記事が載っており、日本人クライマーと共にこのおばさんも一緒に写っている。

というわけで、私たちがこれから数日間、お世話になることになった。



ソヌンサ(禅雲寺)の天王門



ソヌンサ(禅雲寺)境内にある色鮮やかな提灯



地元クライマーご用達の食堂

## 5月20日 ソクサル岩

朝、ホテルのサウナに入った。ヘスタンという海水を使った大きな風呂釜がある。これに浸かる。多分、健康には良いのだろう。

朝食は隣のドンベクホテルの食堂で食べた。ベクパンという溶き卵をふかしたものが出てくる。これが美味しい。

さて、今日はソクサル岩へ行った。昨日は誰もいなかった岩場に、今日は10数人のクライマーが来ている。

23区域の1番5.9から始めた。出だしが少し悪い。4番5.10bも出だし核心だ。8番5.12aは1996年に開催された大会で、女子の予選に使われたルート。地元クライマーお薦めの五つ星。29番5.11cもかぶりを越していく好ルート。……。

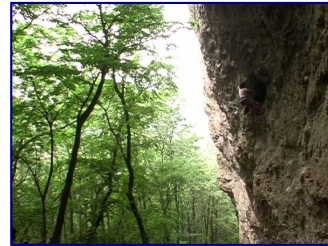
明日は雨という予報なのでたくさん登ろうと思ったが、やはり、体が付いていかなかった。最近は一週1回程度のクライミングなので、体力もその程度ということなのだ。



朝食 ベクパン



5.9を登るYさん



5.11cをオンサイトして拍手を浴びるTさん

## 5月21日 チョンジュ(全州)

天気予報通り、朝から雨。ガイドブックとにらめっこして、チョンジュ(全州)へ行くことにした。目的は有名なチョンジュ(全州)のビビンバップを食べるためである。

まず、コーチャン(高敞)まで出て、そこでバスを乗り換えてチョンジュ(全州)に向かう。こちらの方はバスのチケットの買い方などいろいろと親切に教えてくれる。

チョンジュ(全州)へ着くと、ガイドブックに書いてあるビビンバップの店に直行。味はチョンジュ(全州)で一、二を争うというだけあって、美味。

チョンジュ(全州)は現在、古い建物を修復し、清流を通した小道を作ったりして、観光の街に変貌しつつある。あちらこちらを散策して結構楽しめた。

再び、バスでコーチャン(高敞)まで戻った。ここでサムギョプサル(豚三枚肉の焼き肉)専門の店に入った。久しぶりの肉だ。これで明日からのクライミングも万全。



チョンジュ(全州)で一、二のうまさ誇るビビンバップ



慶基殿・・・朝鮮太祖の李成桂の御真を奉安するために創建



工芸品展示館で輪投げに興じるSさん



## 5月22日 トグ岩

青空が全天を覆う素晴らしい快晴。雨上がりで景色も澄んでいる。

トグ岩に着く。看板の難グレードエリアである18・19区域は昨日の雨で水がしたたり落ちていたが、下部の易しいエリアである17区域は乾いていた。気温が上がるかと思っていたが、木陰では肌寒いぐらい。

17区域の5.10台を順順に登っていった。終了点まで着くと結構見晴らしがよい。

午後になって、一組のカップルがやってきた。韓国語を上手に話す米国人女性と頭がツルツルの韓国人男性。この男性はソヌンサ(禅雲寺)のお坊さんだという。大きな声を出し、気合いを入れて登っていた。日本では、お坊さんがハーネスを付けて登っているシーンなど見たことはないが……。

夕食はクライマーご用達の店で、鰻を食べた。ソヌンサは鰻が美味しいので有名だという。確かに、鰻の一片をサンチュに巻いて食べると、ぎとぎとせず、うまい。

そして、この店のおばさんのサービスでヒイカを出してくれた。コチジャンにつけて食べるとサイコー！



花と花 どちらが綺麗と聞かれても……



韓国では一番見晴らしのよいところにあるのがお墓



売店から道案内をしてくれた犬



5.10a を登るYさん



5.11a をオンサイトするTさん



5.11c をオンサイトするSさん

## 5月23日 再び、ソクサル岩

朝は曇っていた。そして、時よりパラパラと霧雨が降った。

岩場に行くにはソヌンサ(禅雲寺)の拝観料売場を通らねばならない。初日、二日目と拝観料を払って通ったが、三日目からゲートのおじさんが気を利かせてくれて、フリーで通過。ありがとうございます。

ソクサル岩は土曜日だということもあって、多くのクライマーがやってきた。皆さん、ガンガンと登る。その間隙をぬってSさんが5.12aのルートを上オンサイト。そして、Tさんも「96女子予選」という名前のルートをレッドポイント。このルートは1996年にコンペが行われたとき、女子の予選に使われたもの。Tさんはこのコンペに参加されたそうなので、そうすると13年ぶりに再び登ったことになる。

帰り際、「日本人ですか？」と声をかけられた。その声の主のジョンさんは1996年のコンペに参加したTさんのことをよく覚えているという。そして、「ユージも韓国に来たときは一緒に登りましたよ」と笑顔で語った。

午後からは青空が広がって来た。緑に囲まれたこの美しい岩場ともこれでお別れだ。



5.12a をオンサイトするSさん



5.11a をトライするYさん



5.12a をレッドポイントするTさん

ん

夕食はクライマーご用達の店に行く。ナクチジョンゴル(飯蛸の煮込み)を食べていると、今日同じエリアで登っていたクライマーが入ってきた。店のおばさんによると、そのリーダー格の人が昔、韓国ナンバーワンのクライマーだったという。その方に話を聞くと、1996年のコンペに参加し、Tさんを覚えていた。同じコップで飲み交わす韓国式スタイルの乾杯が始まるとぐっと盛り上がった。そして、締めはもちろん、Sさんの歌「サランへ」でピシッと決めた。全員で写真を撮り、「また、来ます」と握手を交わして別れた。

何処の国へ行っても、クライミングを通して交流が広がっていく。クライミングっていいですね。次は地球上のどこに行こうかしら？



ナクチジョンゴル(飯蛸の煮込み)



サランへを熱唱するSさん



全員で写真

## 5月24日 ソウル

朝、8時25分ソヌンサ(禅雲寺)発のバスでコーチャン(高敞)へ向かう。コーチャン(高敞)でソウル行きバスに乗り換え。

途中、私の携帯に電話がかかってきた。韓国の検疫所からで、「せきや熱はありませんか」だって。日本人は新型コロナウイルス陽性の疑いありというわけだ。韓国に渡航している日本人すべてに電話をかけているのだろうか。ご苦労様。

12時半頃ソウル着。やはり、高層ビルが建ち並ぶソウルは都会だ。

荷物をホテルへ置いた後、地下鉄を乗り間違えながら、東大門に着く。9番出口を出て、250mほど進み、左に折れると登山用品専門の店が並んでいる。ソヌンサ(禅雲寺)で会った例のお坊さんクライマーお薦めの店に入る。既に店員に連絡が入っているらしく、私たちがウロウロしていると、店員が出てきて店に招き入れてくれた。友が友を呼ぶ。人間関係は言わずもがな、とても大切なことだと痛感した。



地下鉄9番出口を出て振り返ると東大門



地元クライマーお薦めのクライミングショップ



試着しているSさん

韓国の岩場へ行く場合、何と言っても気になるのがハングルの壁ではないだろうか。韓国のクライマーは英語や日本語を話せる方が多いと感じた。知的である。だから、岩場までたどりつけばなんとかなる。

問題は交通機関や食事などであろう。ハングルでしか表記していないので、読めなければこっちもさっちもいかない。

韓国語は外国語の中で最も日本語に近い言語である。同じウラル・アルタイ語族であるので文の構造は一緒。同じ漢字文化圏なので、漢字をイメージして聞けばわかりやすい。そして、ハングルは15世紀に出来た文字だけあって非常に論理的である。ローマ字と同じなので、基本母音 10 個と子音 19 個だけを覚えれば読むことができる。

インド・ヨーロッパ語族で四声のある中国語、子音だけで 42 個あるタイ語、男性、女性名詞で語尾変化するイタリア語やギリシャ語に比べれば、韓国語はまったく簡単そのもの。

皆さんもハングルを覚えてみてはいかがでしょうか。

そして、最後に、韓国でお世話になった皆様に本当に感謝します。ありがとうございました。